

# 広報 やまの

No.130  
2021.12.25

山野地域づくり協議会  
〒932-0204 南砺市飛騨屋20  
TEL 0763-82-4510



坪野地区

## シリーズ「山野再発見」



専勝寺地区



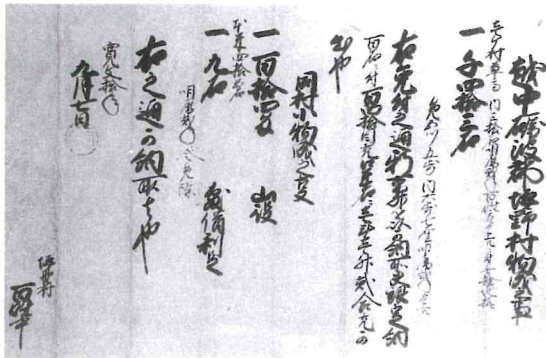
# 「坪野地区 今昔」

古来より氾濫を繰り返してきた庄川の最南端に、大きな沼地状の湿地（坪）が広がる原野であったことが村名の起源にて、奈良時代には、東大寺莊園（杵名蛭庄）の一部と推定され、古くから開拓され農耕に従事しており、文明七年（千四七五）に蓮如上人が瑞泉寺に御下向の際に『庄川を見たい』と仰せになり、坪野の外れの原野にてそつと川原をご覧になり、これを最初の記録とし開村五百年として平成二年に記念事業を行い、坪野村史もその一環として発刊されました。

古くより農耕を中心に発展してきたが、近代に入り加越線が通り富山紡績（現東洋紡）、大建工業等が立地し、今は数社の企業が存在し、また井波幹部交番があり総合文化センターも隣接しています。昭和四十年頃から団地もでき、現在百戸近くの戸数があります。昭和四十年頃から団地も

坪野交差点近くに、天照皇大神を御祭神に、応神天皇、菅原道真公を合祀する坪野神明宮が在り、季節ごとに祭事が執り行われ、秋祭りには村の青年会により獅子舞も奉納されています。

（坪野村史引用）



村御印 寛文10年(坪野村文書)



増改築直前の坪野神明宮社殿 平成2年2月

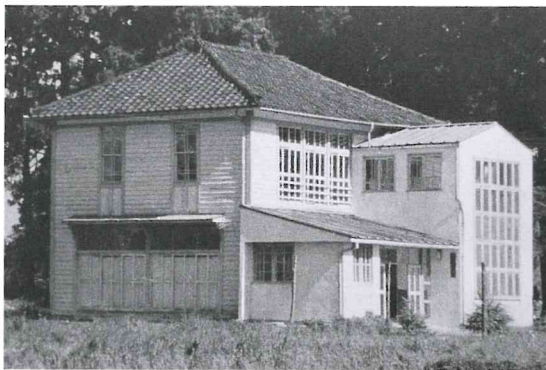
# 「専勝寺の昔と今」

専勝寺地区が独立した村となったのは、室町時代末期である永祿元年（一五八八）から桃山時代の初め（一五九〇）頃と伝えられており、名称の由来は以前集落にあった大寺院「専勝寺」の寺号が村名になったと越中志徴にも誌してあります。

一九七六年の圃場整備を期に墓浦地区と集落が統一されて現在にいたっており、一九八〇年には専勝寺神明社と墓浦八幡社が合祀されています。毎年春秋の例祭や新嘗祭が行われている専勝寺神明社は、戦国時代に上杉謙信が戦勝祈願をしたと伝えられています。また、江戸時代には加賀藩前田家の厚い庇護を受けたとのことでした。

秋の例祭に奉納される獅子舞は南砺地方では珍しい二人獅子で、独特な舞であり地区以外から毎年訪れるファンもいるなどで、地区民の融和と絆作り大きく貢献しています。村の中央を流れる六ヶ用水は早くから整備が進み市道、県道の整備も進み住みやすい地域になっています。

（専勝寺村史引用）



専勝寺旧公民館



専勝寺公民館(現在)

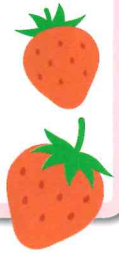


# いちご狩り

6月7日、畑で実った苺を摘みに誘っていただき、行ってき  
ました。赤く実った苺を見つけ「わあ！あつた〜!!」と嬉しそ  
うに摘み取っていました。

子ども達の顔ほどの大きな葉っぱに  
隠れていた苺もあり、「見つけた!!」と  
宝探しのよう楽しんでいました。甘  
酸っぱい苺の匂いに囲まれて幸せなひ  
と時でした。

園に戻ってから採れたての苺を食べ  
「甘くておいしい!!」と、笑顔のらいお  
ん組の子ども達でした。  
森田先生



# 山野保育園との交流事業

## 芋ほり体験

「寝かして植えるんだよ」と教えてもらいながら植えたサツ  
マイモの苗。10月25日に待ちに待った芋ほり体験をさせていた  
だきました。「わあーでつかい！保育園の芋よりでつかい  
な」とあちらこちらで歓声があがりました。大きさ比べ、長  
さ比べ、ちよつと寄り道ミミズ探し。

地域の方と触れ合いながら出来た貴重な体験でした。年長組  
さんはあと5ヶ月で小学生ですが、畑で育ったサツマイモに負  
けないくらい、心も身体も成長して欲しいと願っています。

鈴木先生





## 米寿表彰

10月24日米寿表彰の伝達が、コロナ感染予防のため一軒一軒訪問して行われました。

大浦山野地域づくり協議会会長、川上健康福祉部長が、米寿を迎えられた16名の方々のお宅を訪問し田中市長のお祝い状を伝達されました。交流センターでの敬老会は、足腰の不安のため欠席者が多かったのですが自宅を訪問したことにより、ご不在の1名を除く全員の方が玄関まで出て下さり、感激の面持ちでお祝い状を受け取ってくださいました。今後の敬老会の形式や米寿表彰の伝達方法の、再検討が必要であると感じました。



# 元気で 長生き



## いきいき健康サロン

毎月2回第一、第三金曜日に山野交流センターで、「いきいき健康サロン」が開かれています。毎回20〜30名の高齢者が集まり、ボランティアの方々のお世話でまずその日の血圧測定をしてから簡単な運動やゲーム、ときには法話会や俳句教室から健康マージャン、折り紙工作まで多岐にわたって楽しんでいきます。体を動かし脳の衰えを防ぐことで健康長寿を目指しています。まだ参加したことのない方は是非一度参加してみませんか。送迎サービス「やまのりくん」でお迎えに行きますよ!!





## 令和3年度南砺市ケアネット活動チーム員研修会

### 山野のケアネット活動を発表

11月18日井波文化センターで南砺市内のケアネット活動をしている各地域のチーム員の研修会がありました。中山繁實南砺市社会福祉協議会会長の挨拶のあと、山野地域づくり協議会ケアネット委員会委員長磯邊正博さんが「山野地域のケアネット活動紹介」と題して活動報告されました。

内容は山野地域の概要、人口世帯数、高齢化率等から始まり山野地域づくり協議会の組織、体制、ケアネット委員会が健康福祉部の中に位置し、地域福祉推進員や民生委員児童委員などとスクラムを組み、支え合いマップ作りや災害講座、見守り声掛けゴミ出し支援や除雪支援などで要支援者に負担にならないサポートを行っていると発表され、最後に課題として、「お互い様」の気持ちと次世代につながる活動の継続が必要と締めくくられました。

そのあと、グループごとに、身近に「社会的孤立」を作らないためというテーマでグループ討議が行われました。



### 高齢者見守り模擬訓練 in 山野



南砺市地域包括支援センターの呼びかけにより地域住民が参加して「高齢者見守り模擬訓練」が11月23日山野交流センターで行われました。

祭日にも関わらず沢山の人の参加で、認知症に対する理解や接し方等のお話し、実際の場面を想定した寸劇と解説を聞きました。そのあと、いよいよ、認知症の行方不明者の捜索や声掛け・保護までの対応を模擬訓練しました。あいにく、風が強く寒い日になり実地訓練が危ぶまれましたが、参加者の熱意で無事行方不明者の発見対応まで出来ました。

認知症の人への対応の心得「三つのない」①驚かせない ②急がせない ③自尊心を傷つけないに配慮した声掛けや、見守りが地域全体でできるようにしたいものです。





里芋収穫  
ふれあい広場

協議会唯一の収益事業と位置付けている里芋栽培と直販事業が2年目を終わろうとしています。今年の里芋は20アールの畑で栽培されました。収穫前のひょう被害があつたなか、まずまずの収穫でした。

収穫された里芋は、「ふれあい広場やまの」産直の店で直接消費者に販売され好評です。L級が真っ先に売り切れていきます。MやSの販売方法や、芋洗い機の無料サービスも行っていますので、もっとPRが必要かなと思っています。

また、ふれあい広場では11月の里芋、冬野菜の時期に合わせて午後3時までの延長営業も実施しました。商品を持ち寄っていただく会員も増え、大勢のお客様がお買い物に立ち寄って下さり、話に花が咲くそんな広場になればと思っています。

里芋栽培に参加された「いもっこ倶楽部」のみなさん、お疲れさまでした。また来年。





# 皆が集う交流センターに!!



**にこにこふれあい  
パークゴルフ大会**

10月17日、砺波市パークゴルフ場で三世代が集い、大会が開かれました。あいにくの天候でしたが、プレイ中はなんとか降られずに無事終了しました。

コロナ禍で閉じこもりがちな日々でしたが、久しぶりにスティックを思い切り振り身体を動かし、爽やかな気分でした。

**だれでも・なんでもサロン**

毎週火曜日午後2時から、老若男女問わず自由に遊べ、したいことが出来るサロンをしています。この日は全館解放し自由にお使いいただけます。

また、4時ごろからは山野保育園児たちが、保護者同伴で大勢遊びに来ます。送迎サービス「やまのりくん」でお迎えに行きますよ!!



**わいわい健康スポーツDay**

第二、第四土曜日の午後は交流センター2階スポーツ室で自由にスポーツを楽しめる日にしています。一人で体を動かすもよし、グループで何かの競技をするもよし、スポーツ推進員もいますので、相手になるもよしです。

スポーツ用具も揃えてあるので、手ぶらで動きやすい服装で、個人でも家族でもご自由にご利用ください。

ウォーターサーバーもあります。





# 移住者わくわく交流会



南砺市に移住されてまだ日の浅い方々により南砺を知っていただくために、なんと未  
来支援センターが行っている交流会が、12月12日に山野交流センターで開かれました。  
山野地域づくり協議会も協力し山野の特産品や地域活動を紹介し、山野いも工房指導の  
もと、里芋を使った「おはぎづくり」を、体験していただきました。

里芋を練りこんだおはぎは珍しく、皆さん真剣にまた楽しく取り組まれていました。  
そのあとは皆さんで試食会をしながら楽しい時間を過ごしていただきました。

体験会を終えてのアンケートでは、「家でも作ってみたい」「今までにないほのぼのと  
した雰囲気だった」「良い物件があれば住みたい」など、好印象の反応をいただきました。  
た。これからの山野地域を考える上でこの催しは、大変意義のあるものになりました。

## 編集後記

当協議会では、令和元年の秋から公募委員による円卓会議で、山野地域の活性化のための企画を話し合ってきました。

そして、「交流センターが情報発信や賑わいの拠点になり、子どもたちが気軽に寄れる遊び場であり、大人が困ったことを相談できる身近な窓口になる。」そんな構想の実現に向けて今日まで一歩一歩進めてきました。

本号にもその様子を掲載していますので、目を通して頂き、ご意見などをお寄せいただければと思います。

最近タウンミーティングや円卓会議がブームのようで、どの地域でもそのような会議をもって活性化のためのアイデアを出し合っていますが、最後に直面するのが、「誰がやるの？」という問題です。どの地域も、この問題が越えられなくて、絵に描いた餅に終わることが多いのです。

誰かがやってくれるだろう。誰かやってくれないかなを乗り越えて、「私がやる」という意識を持った「人財」をどれだけ擁しているかが、地域の未来を決定づけると言っても過言ではないでしょう。

山野は南砺市の31地域づくり協議会の中でも注目されている地域の一つです。

来年も皆さんと一緒に歩んでいきたいと思えます。いろいろなご意見は直接でもメールでも大歓迎です。

広報委員会